



## 《評価指標データ》

博士研究員（PD）の受入状況  
 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数  
 研究誌発行状況  
 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）  
 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】  
 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】  
 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数  
 21世紀COEプログラムの採択状況  
 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】  
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】  
 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】  
 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★ 小項目4.0.1	英語、フランス語、ドイツ語のインテンシブ・プログラムと中国語、朝鮮語、スペイン語は、各々の言語の教育委員会で運営されており、必要な機能をじゅうぶんに果たしている。社会的要請を考慮し、英語教育に関してはインテンシブのクラス増、MDSの改革などによりプログラムの一層の充実化が図られた。本年度の英語インターミディエイト・コースの入学者は昨年度の324名から423名に増加した。アドバンスト・コースの修了者は16名、MDS修了者は6名であった。中・高英語担当教員対象のセンター教育プログラムへの参加者は20名であった。
小項目4.0.2	毎月のセンター執行部会では言語教育研究センターの教育研究組織のあり方について意見交換を行い、言語の習得と社会情勢の変化、学生のニーズ等を検討している。また、自己点検委員会において、定期的に検証を行っている。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★ 小項目4.0.1	中・高英語担当教員対象のセンター教育プログラムへの参加者を増やすために広報に力を入れる。
小項目4.0.2	センター執行部会、自己点検委員会で言語教育研究センターの研究組織について今後とも議論を継続する。
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★ 小項目4.0.1	中国語、朝鮮語、スペイン語は全学開講されているが、フランス語、ドイツ語は各学部で開講されている。開講形態については統一されることが望ましい。
小項目4.0.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★ 小項目4.0.1	フランス語、ドイツ語を全学開講するか否かについては、時間をかけ検討し、調整する必要がある。
小項目4.0.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

- ★ その他 (自由記述) 2010年度は、英語のインテンシブ・プログラムの内容を改定し教育効果の向上を図り、また英語MDSのカキュラムの改編によってより一層学生のニーズに応えられる体制を整えた。このような方向性は社会的要請に応えるために必要であり、センターの組織としてさらなる充実化が望まれる。

## Ⅲ. 学内第三者評価

## ＜評価専門委員会の評価＞

- フランス語、ドイツ語の全学開講について、検討、調整の課題とされているようですが、検討などの進展が期待されます。
- 目標に対し着実に進展しています。
- 昨年度の学内第三者評価委員の意見でも述べられていたように、研究組織が理念・目的に照らして適切なものかどうかといった観点からの記述が望まれます。
- 各コースの人数などは、過去からの人数を一覧表にして本シートに貼り付けて点検・評価することをお考えください。
- 研究所・センター等については、活動内容を記述する項目がなく、苦慮されていると思われます。本項目に記述いただければ結構ですが、組織が理念・目的に照らして適切か、編成原理はあるのか、そして適切か、などの視点での記述が求められる項目です。

## 【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

- 小項目4.0.1  
基盤評価：なし  
達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」
- 小項目4.0.2  
基盤評価：なし  
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 言語教育研究センターは英語を中心に、世界の異なった言語・文化圏の人々と交流ができ、相互理解が深められるような人材の育成を目指した言語教育を行っている。その実現のために、学生の言語運用能力と使用目的に応じたきめ細やかなレベル分けの実施、多様な種類の授業の提供、最新の言語教育理論に基づく言語教育の実践など、学部の言語教育では実現困難な言語教育を行っている。そのような教育方法の結果は、研究対象として分析・研究され、教育実践とその効果の妥当性は定期的に研究会などで報告されている。英語以外には、独・仏・中・朝・西語などの主要言語はもとより、ロシア語・アラビア語、インドネシア語を含む計10種類の言語教育を担い、英語・独仏語圏への海外研修の提供などにも取り組んでいる。このように、言語教育研究センターは、学生が英語を中心にコミュニケーション能力をいっそう高度化させるとともに、グローバル化する世界情勢の中で多言語にも開かれた国際的な感覚を養うことができるよう配慮し、言語教育の充実が心にかけている。